



白小だより

【教育目標】

 ゆたかに
 かしこく
 たくましく

【白根に生きる子ども～白小を大好きな子 白根を愛する子 白根を考える子～】を目指して!

かけがえのない大切な私 ～思いやりの気持ち～

★「ディズニーランドのお子様ランチ」という実際にあったお話をご存じですか？

10年以上も前に、このお話を知ってから、どの学校においても全校朝会や学校だよりなどで必ず紹介しているお話です。いじめ未然防止の話の中でも「思いやり」について話をしてきました。いじめ未然防止のためだけでなく、一人一人が自分らしく生きていくために改めて「思いやり」の気持ちをもってほしいことを願って、紹介します。

★「今生きている自分自身が、かけがえのない存在である」こと、「思いやりの気持ちをもった行動は、相手も自分もそして見たり聞いたりした多くの人たちをも幸せな気持ちにしてくれる」ことを、夫婦の子どもへの思いやキャストさん(店員さん)の行動から伝わるいいなあと願っています。

校長 井浦 順子

東京ディズニーランドのあるレストランに若い夫婦が訪れました。そして2人は「お子様ランチ」を注文したのです。お子様ランチは9歳以下とメニューに書いてあります。当然キャストさん(店員さん)は、「お子様ランチはお子様用です。」と答え、別のメニューを勧めました。

しかし、その夫婦が寂しそうな顔をしたので、勇気を出して聞いてみました。

「失礼ですが、お子様ランチは誰が食べられるのですか？」

すると、「死んだ子どものために注文したくて…」と答えたのです。キャストさんはびっくりしてしまいました。

しかし、もっと勇気を出して「よろしかったら、どういうことかお聞かせくださいませんか。」と言いました。

すると、「私たち夫婦には子どもがなかなか生まれませんでした。祈り続けてやっと待ちに待った娘が産まれましたが、身体が弱く1歳になる前に亡くなってしまったのです。私たちは毎日泣いて過ごしました。今日はその娘の1歳の誕生日で、いつか娘を連れてこようと話していたディズニーランドに来たのです。そうしたら入り口で渡されたマップに、ここにお子様ランチがあると書いてあったので、思い出になればと思って…」そう言って目を伏せました。

キャストさんは、さらに勇気を振りしぼって、「かしこまりました。ご家族の皆様、どうぞこちらの方に…」と4人席の家族テーブルに夫婦を案内し、それから子ども用の椅子を1つ用意しました。そして、「娘さんは、こちらにどうぞ。」と、まるで亡くなった娘さんが生きているかのように小さな椅子に案内したのです。しばらくして、運ばれてきたのは3人分のお子様ランチでした。キャストさんは、「ご家族でゆっくりお楽しみください。」と挨拶して、その場を立ち去りました。夫婦は、娘が生きていた時を思い出しながら、お子様ランチを食べました。



この後、夫婦は家に帰ってから、このレストランに手紙を書きました。「お子様ランチを食べながら涙が止まりませんでした。まるで娘が生きていて一緒にいるような幸せな時間を過ごさせていただきました。これから、涙を拭いて生きていきます。」

「白根っ子発表会～ホワイトフェスティバル～」 ＜11月2日(土)＞

★11月2日(土)に「白根っ子発表会～ホワイトフェスティバル～」が行われました。あいにくのお天気でしたが、たくさんのおうちの方々にご来校いただきました。各学年の子どもたちも大張り切りで発表に臨みました。

★コロナ禍により中止となった「音楽集会～ミュージックパラダイス～」にかわり、「白根っ子発表会～ホワイトフェスティバル～」として新たにスタートしてから今年度で3年目となりました。ダンスや朗読劇、合唱、器楽演奏、パフォーマンス披露など、音楽だけでなく様々な表現方法を駆使して、一人一人の子どもたちが、自分にできることに精一杯取り組み、各学年で協力して創り上げ、自分らしさを発揮する発表の場となりました。白根っ子たちの生き生きした姿、本当に素敵でした！

～自分らしく輝く 白根っ子たち!～

1年生 [スマイル学年]



2年生 [からふる学年]



3年生 [かがやき学年]



4年生 [にいいる学年]



5年生 [なかよし学年]



6年生 [ひかり学年]

